

中国語「処置文」の指導をめぐって

楊 志 剛 / 網 谷 義 男

1 処置文について

現代中国語では、「把」という言葉の使い方には数量詞や動詞として使われる他に、前置詞として使われる場合がある。動詞的な使い方として、例えば、“把风、把关、把屎把尿、持斋把素”などがある。本研究ノートでは、主に前置詞としての使い方を検討していく。なお、処置の意味を持つ前置詞「将（文章語に使う）・管（名づけに使う）」は、使い方が限定的であるため、今回は本研究ノートから省くことにした。

処置文は、平述文に戻れるタイプと平述文に戻れない（もしくは「把」を使わなければならない文）タイプの2つに大きく分けられることは、よく知られている。

- (1) A 我把日元换成美元了。
B *我换日元成美元了。
- (2) A 他把孩子送到幼儿园了。
B *他送孩子到幼儿园了。
- (3) A (行者) 把一个金击子, 瞒窗眼儿, 丢进他道房里。
B *(行者) 瞒窗眼儿, 丢一个金击子进他道房里。
- (4) A 我把钥匙忘在房间里了。
B *我忘钥匙在房间里了。
- (5) A 故此把牛魔王称为大哥。
B *故此称牛魔王为大哥。
- (6) A 他将钱和药方交给了我。
B *他交了钱和药方给我。
- (7) A 我把杂志翻了几页。
B *我翻了几页杂志。
- (8) A 高玉宝把周扒皮学鸡叫的事告诉了大家。
B 高玉宝告诉了大家周扒皮学鸡叫的事。
- (9) A 我把练习做完了。
B 我做完练习了。
- (10) A 我把酒喝了。
B 我喝酒了。
- (11) A 雨把我淋湿了。
B *雨淋湿了我。
- (12) A 孩子把我哭烦了。
B *孩子哭烦了我。

1.1 処置文の3つのタイプ

述部の形（動詞と名詞との関係を中心とした）から見てみると、大きく三つに分けることができる。(1)から(6)までの例文の述部は、①「把 NP1 + 動詞 + 前置詞 NP2」から構成されている。このタイプの処置文をタイプ1としておく。一方、(7)と(8)の述部は、②「把 NP1 + 動詞 + NP2」から構成されており、(9)から(12)までの述部は、③「把 NP + 動詞」だけで構成されている。それぞれをタイプ2、タイプ3としておく。

上述したように、(1)から(6)までの例文は、それに対応する平述文の形がないのに対して、(7)から(10)までの処置文はそれぞれの平述文に対応することができるが、(11)と(12)に対応する平述文は不自然に感じられる。

1.2 処置文の3つの意味

処置文をいつ使うのかということは中国語学習者がよく迷っている問題の一つではないだろうか。現在日本や中国で使用されている教科書に「処置」という言葉をつかっているものは少なくない。『広辞苑』で「処置」を調べてみると「物事を取りはからって、きまりをつけること。はからい。さばき。」などの説明がある。しかし、上記の例文からも(11)の「雨」は意識を持つ処置の主動者だとは考えられないし、(12)の「子ども」も意識的に「私」に対して「処置する」動作の主体であるとは考えにくいことが分かる。

目的語については、「既知・特定」などの説明が多かった。ただし、例文(4)の「钥匙」に関しては、聞き手、話し手のいずれかに属しているのかに関わらず、意識的に「処置」する意味はうすい。

「処置」という意味を具体的に考えてみると、「…事物が①位置を移動するとか、②形を変えるとか、あるいはどんな③影響を受けるとかを指している。」と『基礎漢語課本』で説明されているが、③についての例文はこの教科書の中では殆ど見られなかった。その3つの意味で上記の例文を分類してみると、

①の移動するという意味を持つ例文は、(2)(3)(6)である。②の「形を変える」はむしろ「変化が起こる」と言った方が適当だと思われるし、そうすると、例文(1)(5)(7)(8)(9)(10)では、何らかの変化が起こっていると考えられる。そして、③の「影響をうける」は、(4)(11)(12)である。(4)の「鍵を忘れてしまった」ということは、話し手と聞き手にとって、何らかの「めいわく」な影響をうけたと考えられる。(11)と(12)も何らかの「受害・蒙る」な意味を持っていると考えられる。この点については、受身文と共通しているので、文の主語はむしろ影響の引き起こし手にある。

1.3 処置文の三つの制約

①処置文の形からみると、二つの前置詞構造をもつタイプ1の処置文の疑問文は、「何をした」だけではなく、さらに「誰に(6)・どこに(4)・どこまでに(2)・何に(1)・なにと(5)・どこへ(3)」などを加えて強調したいわけである。その表現と対応している日本語の表現は、「～を～に(と・へ)する」である。しかも日本語の表現では、格助詞の「に・へ・と」などだけで表現できるのに対して、中国語の場合は、N2の前に来る前置詞は「到、在、给、成、做(作・为・向)」などさまざまである。その中の一部は、「白話小説」から特定な動詞と一緒に使われてきたので、1つの単語のように変化していった。例えば、「看为・视为・当做・看做・建成・变成」などがそ

うである。このタイプの処置文と対応する平述文は現在はない。

タイプ2の処置文は二つの名詞を持つが、それが平述文においてN2はN1の一部であったり、動詞の意味によっては二重目的語であったりするので、NP2の前の前置詞は必要としない例文である。

「把NP」だけを持つタイプ3の処置文は普通平述文と対応する。なお、影響を受けるという意味での(11)(12)は、対応するのは受動文しかないのである。その意味においては、むしろ「処置された」という意味があり、しかも、影響を引き起こし手が文の話題になっていると考えられる。

②意味的に考えてみると、「どうやってして、その結果はどう残されている」という疑問文に対応した文である。結果的な意味、さらに時制的なことを含める日本語の表現は「してしまう」という表現に似ていると考えられる。例えば、例文(10)のAは時間的には、過去のことであり、結果的には「酒を“全部”飲んだ」という意味が含まれていると考えられるのに対して、(10)のBには、「全部」という意味がないのである。

③意味的な制約から、処置文は構文的にも次のように制約されている。(A)文の処置する意味を表す焦点によって、否定副詞などは「把」の前に置く。(B)動詞の後ろに、動作の結果・程度・方向・時間などを表す補語と助詞、そして(C)文のモダリティーによって、命令・願望・さそいかけなどを表す他の成分の加減が必要となる。

なお、動詞の文法的な意味について、「来・去・有・在・上・下・遊行・譲歩・知道・看などの不及物動詞及び心理活動を表す動詞は処置文に使えない」と『基礎漢語課本・教師手冊』に説明があるが、心理活動動詞に関しては、

- (13) 我把他知道得一清二楚。
- (14) 我早把这件事想好了。
- (15) 我把他看透了。

のように考えた結果や程度を強調したい場合に表現ができるのだろう。

2 中国語処置文の指導項目と順序

中国語教育でとりあげる処置文の主な指導項目を例文によって示すと：

- (1) 我要把日元换成人民币。 成(什么)
- (2) 他把孩子送到幼儿园了。 到(哪儿)
- (3) 我把钥匙忘在房间里了。 在(哪儿)
- (4) 他把书交给了老师。 给(谁)
- (5) 我把他当做朋友。 做为(什么)
- (6) 我把练习做完了。
- (7) 我把酒喝了。
- (8) 孩子把我哭烦了。
- (9) 雨把我淋湿了。

(1)から(5)までは二つの前置詞構造を持ち、しかも平述文に戻らないタイプ1である。(6)から(9)までは、前置詞「把」だけをもつが、(6)(7)は平述文に戻れる処置文であるのに対し、(8)(9)は、受害という意味をもつ処置文で、平述文に戻れない処置文である。

今までの教科書では、(6)(7)型からの導入が殆どであるが、私達は本研究ノートで中国語処置文の最も代表するタイプ1と日本語との共通点から、タイプ1からを初級における指導項目・指導順序としている。

2・1「把 NP1 + 動詞 + 前置詞 NP2」の導入

ここでは、中国語で最も特徴がある二つの前置構造を持つ処置文の基本的な形、そして、処置の意味の①②を理解させることを目標とする。

まず、例文(1)の導入。背景：太郎は旅行先の中国の銀行で、人民元が必要になったので、その旨を店員に伝えなければならないと設定する。先生が日本円を「何に」両替しなければならないという質問を出し、日本語の「私は日本円を人民元に両替したい。」という文を書き、それに対応する中国語の処置文「我要把日元换成人民币。」に訳し、次のようにまとめて黒板に書く。

日本語：	(名詞) を	(名詞) に	動詞
	↓	↓	○
中国語：	把 (名詞)	動詞	前置詞 (名詞)

説明：お金が、日本円から人民元に変化したことによって、「把」を使わなければならない。

練習：背景：帰りに、中国の空港で、「人民元を日本円に両替した。」を訳してもらい。

次に、N2の前置詞は後ろに来る名詞によって、さまざまであることを教える。そして、例文(2)から(5)までをやる。さらに、NP2の前によく使われる前置詞の「成・到・在・給・做」などとNP2との組み合わせの意味を説明する。

- 成 + 変化の内容を表す名詞
- 到 + 移動の行く先を表す名詞
- 在 + 移動の場所を表す名詞
- 給 + 移動・伝えるの相手を表す名詞
- 做 (作・為) + 考える・見なす内容を表す名詞

2・2「把 NP + 動詞」の導入

ここでは、処置文の①②の意味を固めた上で、さらに③の意味を理解してもらうことを目標とする。

まず、(6)を導入する前に、もう1度例文(1)を復習する。

- (1) 我要把日元换成人民币。は既に行ったことであるから、
- (1') 我把日元换成人民币了。になることを理解してもらう。

背景：日本円を両替した太郎が、入り口に待っていた花子の所に戻り、花子も太郎が人民元を両替に行ったことを既に知っていたので、変化した結果の「人民元」を言う必要がないが、処置の意味がそのまま残されて、

(1'') 我把日元换了。

と花子に伝えた。そして、先生が次のようにまとめて黒板に書く。

中国語：	把 (名詞)	動詞	了
	↓	↓	↓
日本語：	(名詞) を	動詞	した

その上で、例文(6)(7)を導入する。

平述文と処置文の区別の説明：

(7) 我把酒喝了。

(7') 我喝酒了。

(7')は、私は酒を飲むということがあっただけであるが、(7)の文では私が「酒」というものに対して処置したのは①過去のこと②結果としては全部を飲んだことである。それが、日本語の「酒を飲んでしまった」という表現に似ていると説明する。

次に、(8)(9)を導入する前に、受動文を復習する。教科書で受動文を教えていない場合、受身の意味を簡単に説明しておいたほうが良いだろう。

(8') 我被孩子哭烦了。 (8) 孩子把我哭烦了。

(9') 我被雨淋湿了。 (8) 雨把我淋湿了。

説明:(8')と(8)、そして(9')と(9)は両方とも「蒙る」という意味があるが、それぞれ「子ども・雨」を話題にし、そして、私が被害の程度を言いたい時、処置文を使うこともできる。このような迷惑・被害をうける意味を持つ処置文も平述文に戻るとができない。

2-3 個別項目の説明

2-3-1 動詞の後ろにつく他の成分の説明

「処置」という意味に含まれる①移動②変化③受害という三つの具体的な意味を説明した上で、動詞に関する他の成分の個別説明を簡単に行うことができるだろう。指導に必要な項目は次の通りであるが、授業時間の都合により、説明を簡単にすればいいだろう。

①処置する意を表す焦点によって否定副詞・可能・願望を表す能願動詞などを「把」の前に置くこと。

②処置した結果・時間を表す他の成分の内容

A 了	我把酒喝了。
B 程度補語	谢力把课文念得很熟。
C 方向補語	我们把桌子搬到外边去了。
D 結果補語	我把练习做完了。

③文のモダリティーによって、

A 命令：1 動詞の重複	把身上的雪扫扫
2 裸動詞	把队伍解散。
B 疑問詞：	把他怎么样？

2-3-2 「把 NP 1 + 動詞 + NP2」の説明

(10) 我把杂志翻了几页。 (10') 我翻了几页杂志。

(11) 他把电影票给了丁力。 (11') 他给丁力了电影票。

(10)の文に対応する平述文は、NP2の名詞はNP1の名詞の一部であり、処置文においては、新しく加えた成分はないので、NP2の前の前置詞を取る必要はない。(11)の平述文においては、二重目的語であり、処置文においては、新しく加えた成分もないので、前置詞をとらなくてもいいという説明を行う。

3 まとめ

中国語では、一つの事柄に対して、三つの表現（平述・受身・処置）で表す場合がある。

- A 我喝酒了。
- B 酒被我喝了。
- C 我把酒喝了。

（私達は、それらを平述態・受動態・処置態と呼びたいと考えている。）処置文の指導に関しては、日本と中国の中国語教科書の多くは、(6) (7) 型の平述文と処置文の意味や使い方の相違から導入されている。私達は、まず中国語の処置文を形により三分類する。その上で、処置文の最も代表的な二つの名詞句を持つ形の処置文を、適当な場面の設定により「処置」の基本的な意味を説明することから始めるべきだと考えている。さらに、処置の意味を理解させるために、現行教科書にはあまり見られないが、処置文に含まれる受害という意味と受動文との関連も授業内容の不可欠な内容の一つではないかと考えている。

参考文献及び例文の出典

- 1 『基礎漢語課本』外文出版社 1980
- 2 『「基礎漢語課本」教師手冊』外文出版社 1982
- 3 呂叔湘『現代漢語八百詞・増訂本』商務印書館 1999
- 4 卢福波『対外漢語教学実用語法』北京語言文化大学出版社 1995
- 5 宋玉柱『現代漢語語法基礎知識』語文出版社 1992
- 6 竹島金吾監修『中国語さらなる一步』1998ほか
- 7 孫暉・Theodore D.Huters主編『開明中級漢語』語文出版社 1987
- 8 荀春生『対日本留学生的翻訳課教学「語言教学与研究」』1979・2
- 9 『西遊記』人民文学出版社 1992
- 10 『広辞苑』第三版 岩波書店